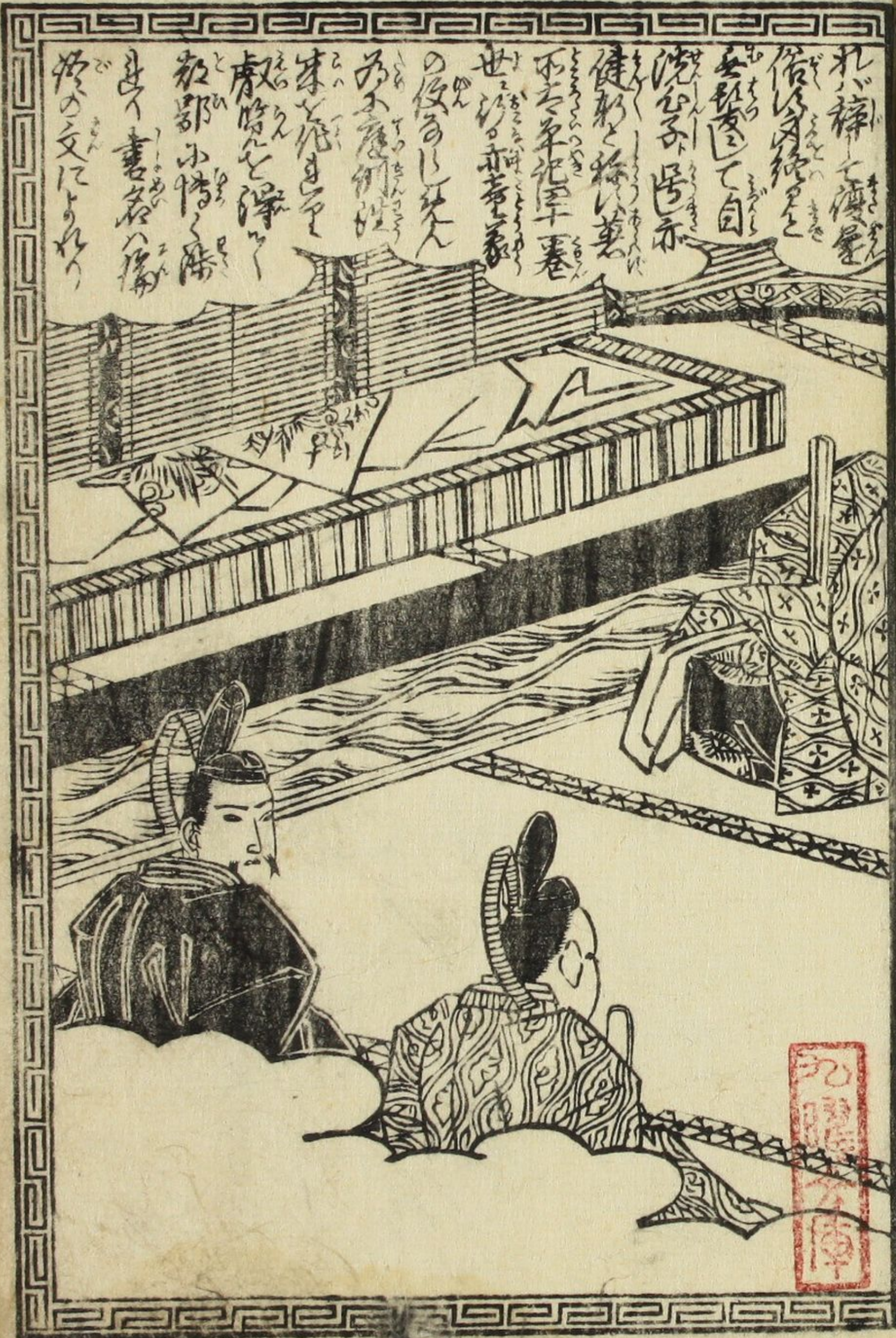


頭書
繪註

庭訓往來講釋

上





此の物語は...
 小島...
 台家...
 傍...
 時...
 秘...
 鐘...
 奇...
 去...
 と...
 友...
 新...
 と...



此の物語は...
 小島...
 台家...
 傍...
 時...
 秘...
 鐘...
 奇...
 去...
 と...
 友...
 新...
 と...

仁義禮
智信

鶴舞子
多掬

堪遊万

朱汀

松竹梅



春始向妻



朝拜
先自妻の
大徳解して
ひまをせし



庭訓往来集
庭訓の義に於て進状

庭訓の義に於て進状
庭訓の義に於て進状

庭訓の義に於て進状
庭訓の義に於て進状

庭訓の義に於て進状

春始向妻
庭訓の義に於て進状

庭訓の義に於て進状

ね
子の日遊
正月一日



揚弓
二月二十



雀小弓
二月七



雀小弓
二月七



首へ▲妻方と八歳越と括は是二歳中み佳の方とて倍
妻方とも助の方ともいふ▲妻方福松松幸とて先方と

正月一日遊するも思延引似
押歳初初拜志以朔日元

之之次可も中と妻被延儀

人々子日遊するも思延引似

雀号と括む苑小棟遊日歌

雀号と括む苑小棟遊日歌

雀号と括む苑小棟遊日歌

雀号と括む苑小棟遊日歌

雀号と括む苑小棟遊日歌

雀号と括む苑小棟遊日歌

雀号と括む苑小棟遊日歌

雀号と括む苑小棟遊日歌

心的騎馬



為者の射



其義一切我物



上手下手



四目の方と以て射るを礼儀持て秘技のついでとて

九手変へ射るの場不隠む死夫二手打出て一筋成等

意に立て歩くと筋と手に技とを射るとなす九筋

の夫と射るゆゑと九とあはれ一は九筋の礼儀とていつ

世の弓もゆゑとゆゑと或説ふと九手変へ技物の事

とて八手の打ちと四ツ二切り串に技とて立つと四手といひ

九ツに切ると九手といひ九筋とてなり八筋の四手八枚とて

場のあ方に四枚づゝて射るは筋とて七筋とて射る

或書にむ有田守揚枝を紙算子針小刀ホの八筋と八所

にまゝ射るといふと但一は射技物のゆゑとて技物と

いふ不射不美人の姿後小射とてなれば倫不と定むれ

るひたゞ履をどとて射るはゆゑも古にせよ今もは

為者射手此技達者お有也

誘引思食之流志女を也人

車能多の致系會と次要不

能爾爾毫心と謹云

る成る夫といふまじて物の下手あるはまのあまの

かたき目とてたあはれ上手は生藝が一切我物なる

ゆゑ者のゆゑと成て去と中たはんを有く▲此技達者此ハ

る技はこれらに達し人といふ▲爾もはく

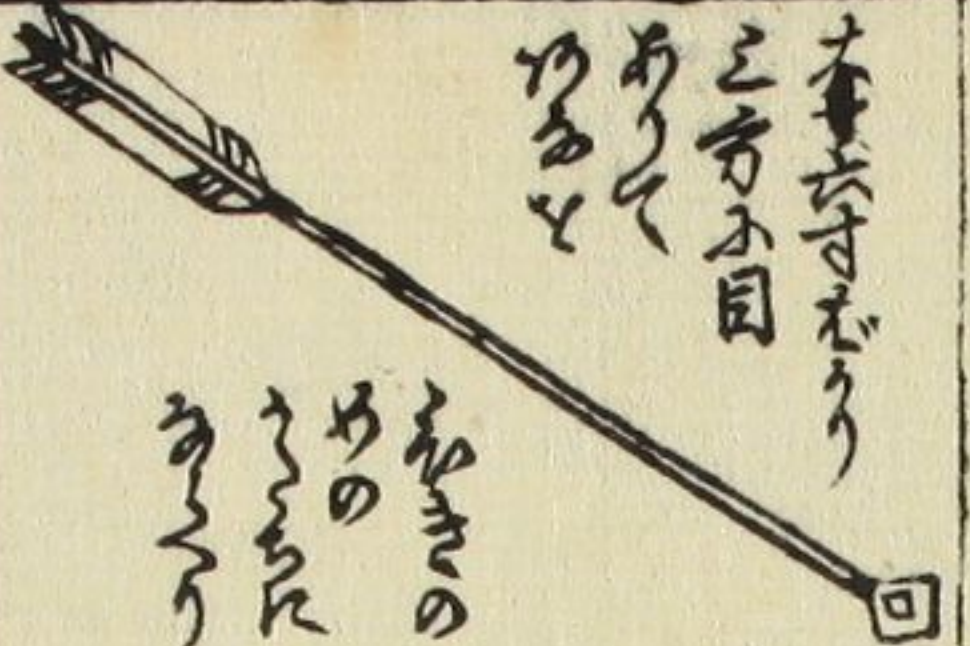
萬物皆有情



的矣



暮目



一酒一紙



先以目出為覺作自他加業

子方之 改年者業之末也 觀之 目出及之業也

自化と我人との 自化と我人との 法

芳札披見之 芳札披見之 陽遊宴時

臨空作雲凍早脱 臨空作雲凍早脱 萬物皆有情

布之 布之 自化在際不

之 之 也 芳札披見之

之 之 也 芳札披見之

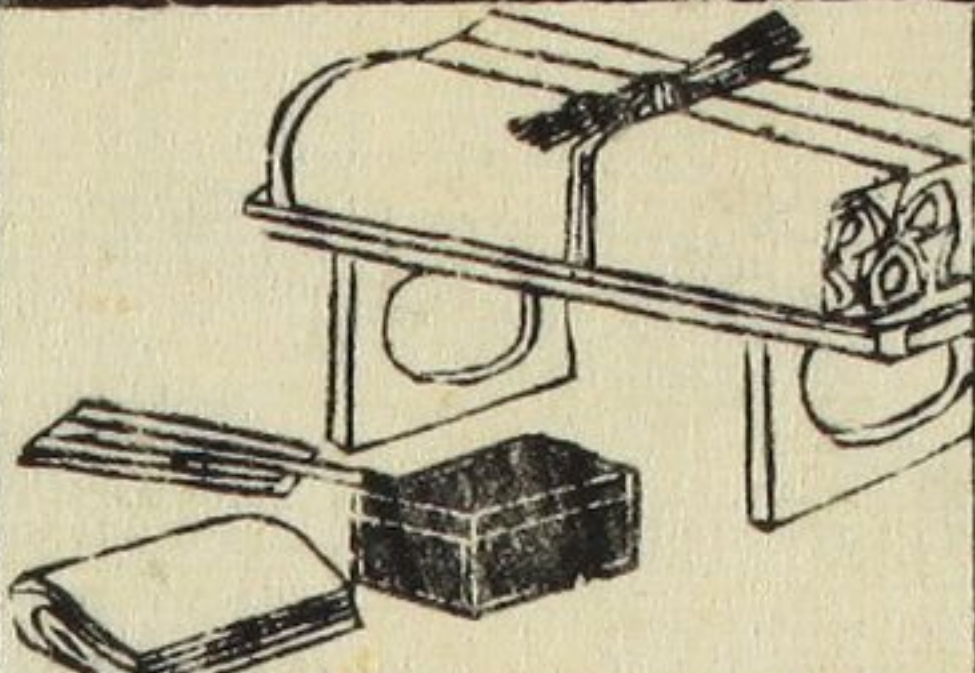
之 之 也 芳札披見之

之 之 也 芳札披見之

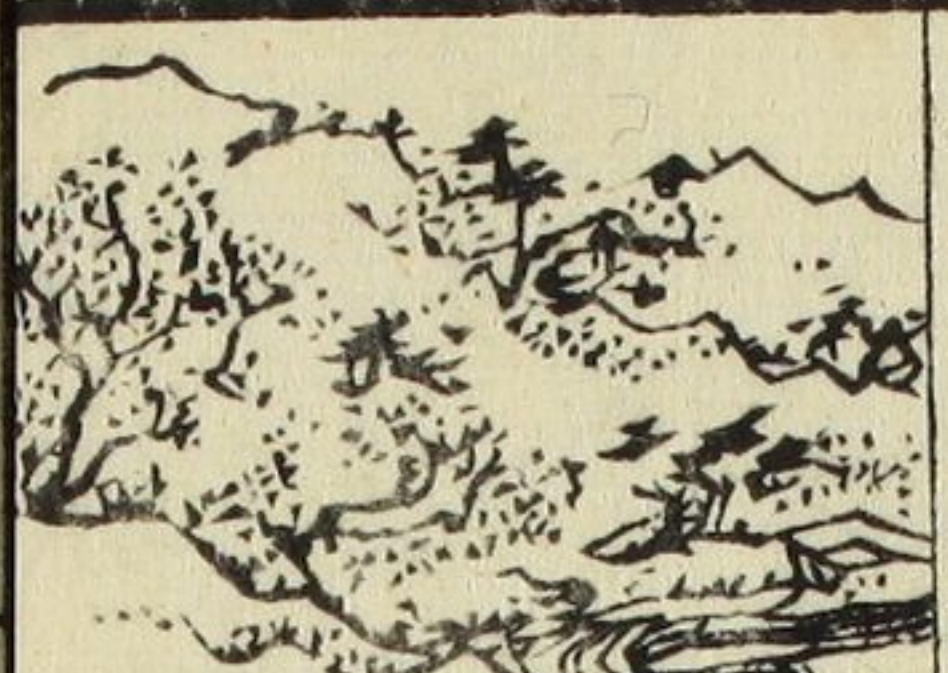
之 之 也 芳札披見之

之 之 也 芳札披見之

賭物引出物



春遊



高き毒毛



面福之時



養田木無沙汰博入儀 百筋の矢残百

交射する一矢ももつらぬ無双の射子と云ふ▲宛先上手と云ふ
玉極のもくれん▲的矢に甲突乙矢あり是と強弱の矢と云ふ

篋は篋の中も入れし白篋は本式と云ふ羽管は横若振
ハ當定とて七半射と入るなり存射的と射るなり由是の矢

のふゆりとぞ▲養田の柵の名あり七寸柵の本を作り
と方に宛と透し養乃目小者なる篋は的矢はト丸名目を

ありたしは法魔と除くの具 **一種一瓶を尻中**
うてれ無射不射ありふりあり

保設賭引出物も其も高き毒毛

軟肉くす彼印は名ある子物老

之も不及一二侮如曲福之時

忘々後云 一種一瓶一酒のり 結引出物の
射子なる紙并小射の敷へつとて射

猶ちくろ方とらつる養田のあり▲高き毒毛は名ある子物
格入▲毒毛は宛先と云ふはトをせをすると射てはりの世

俗するといふ▲物老はりのいそがし一紙解たり▲侮は字に云ふ
し多しと射むとく世俗の必射のふ不利なるは紙并を

とらふらよえとて一紙解ト▲面福の
そのありと射ると射てはるは紙并のり

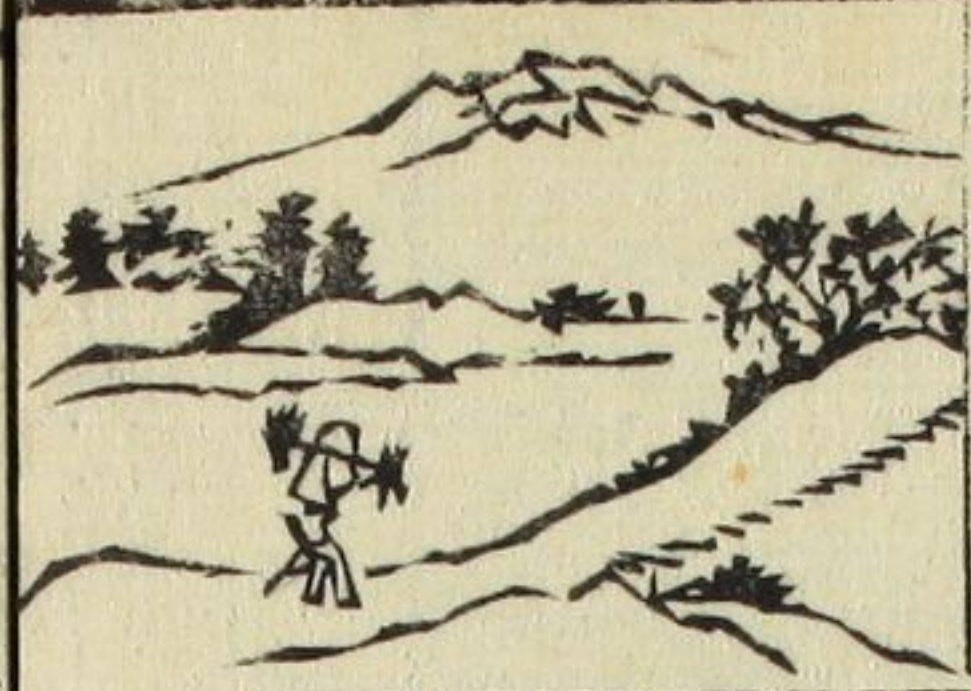
文意

改りたる意の
右意を詳

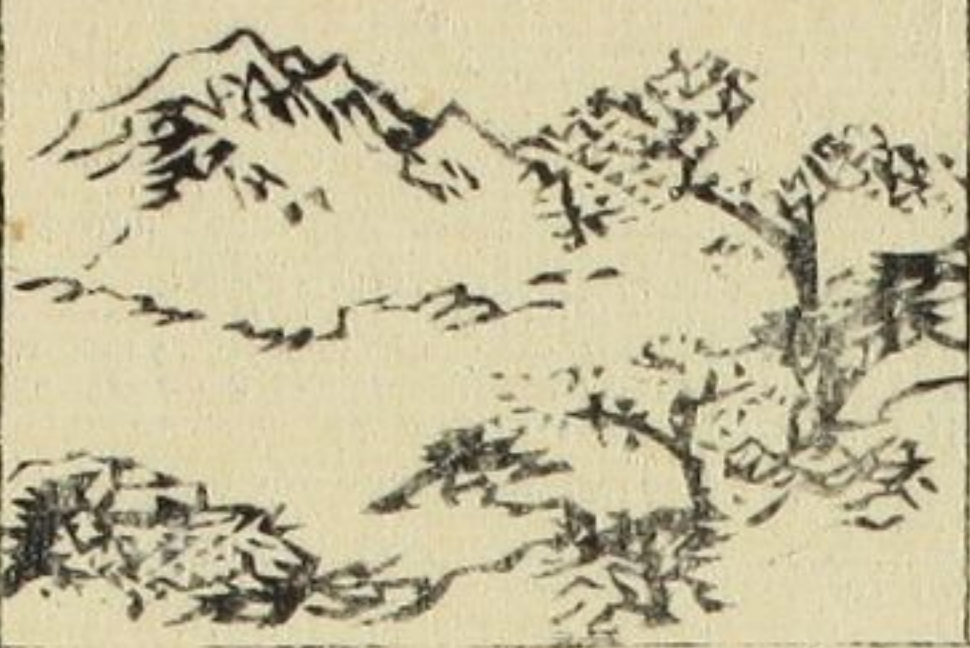
雲林院



暖城



春野山



流花水



折醜翻雲林院花濃香芳

白已盛也暖城春野山橋園

落交條主稍繁花默止山名池

首也季流花向送光陰哉

林院春野山城雨うて花の香下あり首を林院よを志
受花合款もあどつ今春も雨うるは白已盛うる
花の香更之熱止ハがたまるて止むありそ

花下好士

法家狂仁如雲似鹿在鹿之

如名系物侍僕瓶合助也之を

隣之若花法家仍之幾名菓子

作流乃友道之松以美體之飛

明後日歩門在作也本守也

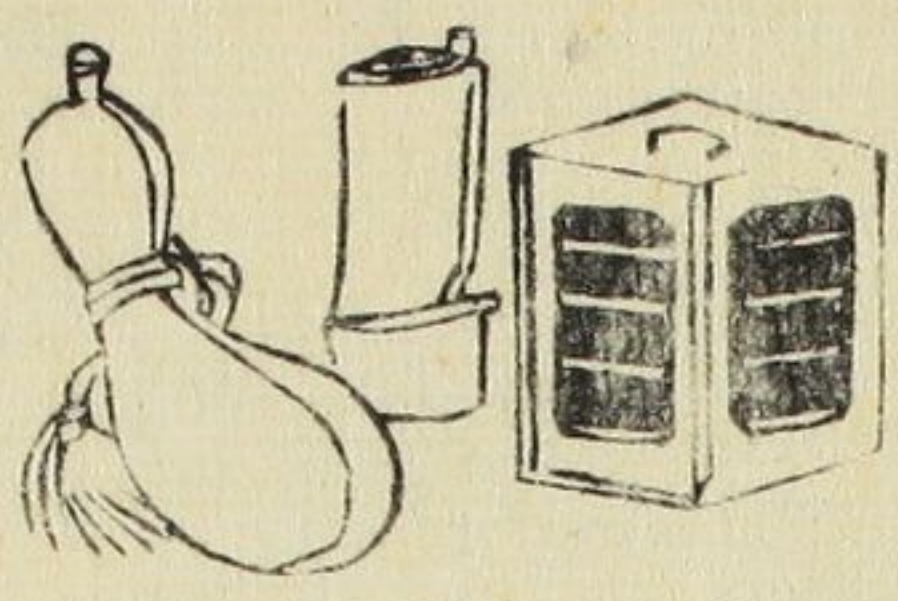
花中の好士



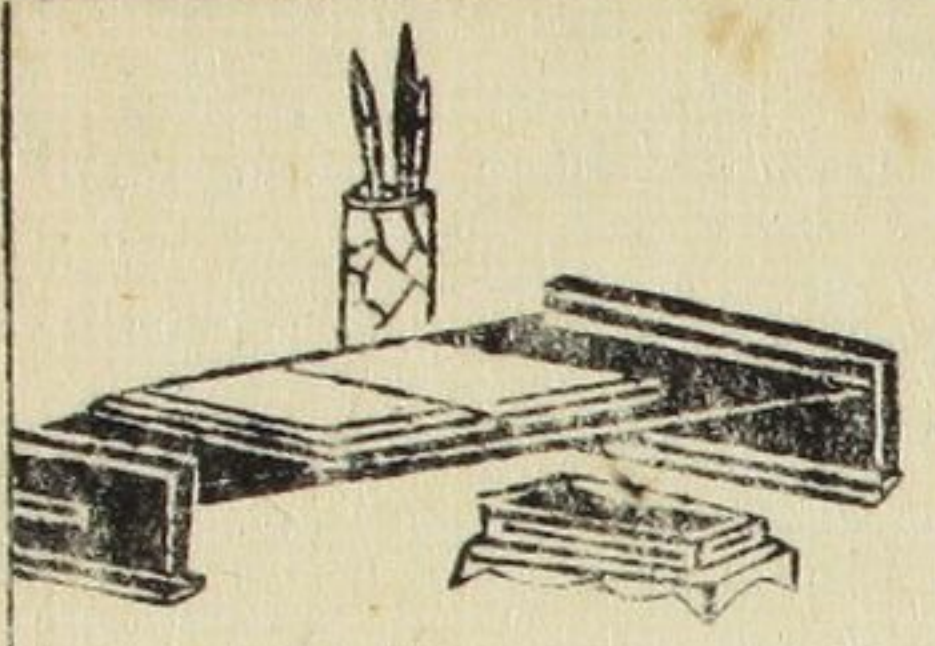
連宗匠



破鏡小竹筒



懐紙硯



▲花中の好士と云はるに心を後一御方とてりてりて風流の
人との徳家程仁といふも曰く英氣に溢れて所 志

と播る雅拙の陸より後紙の糸に花さより四角の糸
をよつとぐれて表へんの糸にその糸やと積る糸たり▲

ぬき似置六人の歌くむれあつちなる成たと一 相新の成の
やくとつに口ト▲傳僕下初め者とのみ▲左道と云はるや

つくとまゝに心ゆくは逆あるをまゝとあひたつて野むる
よりいふ何▲吳辨の辨と云はるは義ありたと云はる車に糸

ぶき人の編笠あどちち 連宗匠和歌

思てのやうくやうのそとん

達者一あままてまては誘くは

次辨能句と云はるは紙に筆を依被鏡

小竹筒等と云はるは自是の随身祝

懐紙と云はるは可被懐中紙如河

公座と云はるは紙上信傳紙

奉書と云はるは次不具謹之

▲連宗匠のむら 伊勢無名より

▲盆小かち人の目と云はるはこれと云はるは

るに業平初段つゆすの巻と云はるは

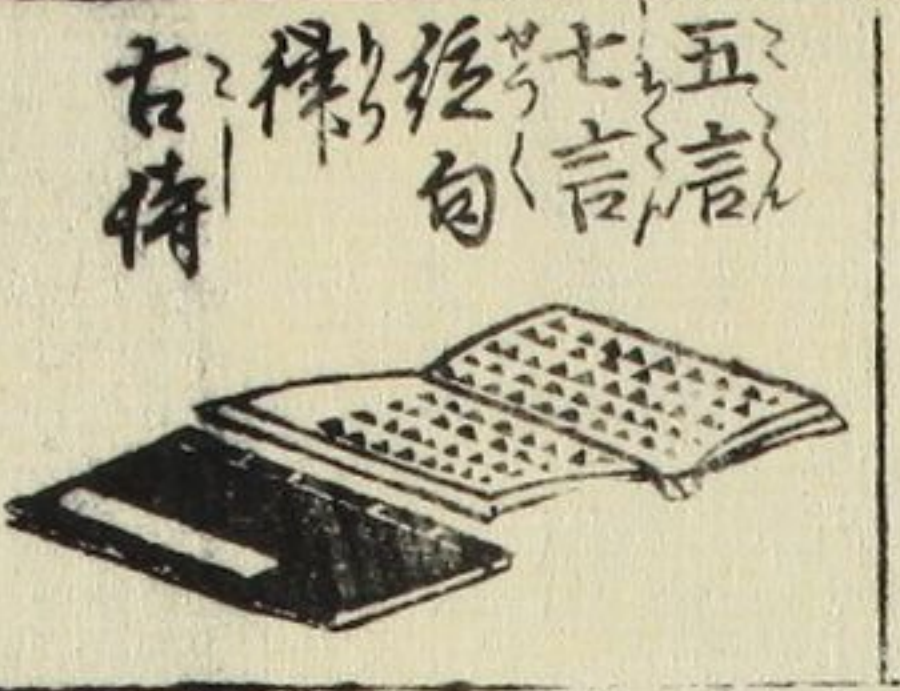
和歌



待聯句



待歌



管弦



と付れりと倭勢物... 宗匠の先達と云ふ

素盞島等の八重... 法るるを八重が元と云ふ

和歌の巻末伏義の時より始まる... 和歌の巻末

の二重より始まる... 和歌の巻末

之先達の拍梁の元は始まる... 和歌の巻末

和歌の巻末... 和歌の巻末

和歌の巻末... 和歌の巻末

和歌の巻末... 和歌の巻末

和歌の巻末... 和歌の巻末

和歌の巻末... 和歌の巻末

和歌の巻末... 和歌の巻末

和歌の巻末... 和歌の巻末

和歌の巻末... 和歌の巻末

和歌の巻末... 和歌の巻末

和歌の巻末... 和歌の巻末

和歌の巻末... 和歌の巻末

和歌の巻末... 和歌の巻末

和歌の巻末... 和歌の巻末

和歌の巻末... 和歌の巻末

和歌の巻末... 和歌の巻末

和歌の巻末... 和歌の巻末

和歌の巻末... 和歌の巻末

和歌の巻末... 和歌の巻末

花鳥



庭前花



庭前花



庭前花



二月廿一日 深心忠之家

僅上 大監物殿

大監物ハ後六條下ニお出立後名ハ一ノ監ニシテ一ノ強心忠大
少ハ大心忠上ハ一ノ心忠下ニお出立後名ハ一ノ忠忠ニシテ

欲自乞令市之處産白紙

同法同心ニシテ

折花下之會奉花者凡月

好士之取学詩号後修と名

齡延年之方也

お叶本懐佐史家

此方より初むる名之悟小そののうたのうたか

後園

庭前之花深心裁樹之極

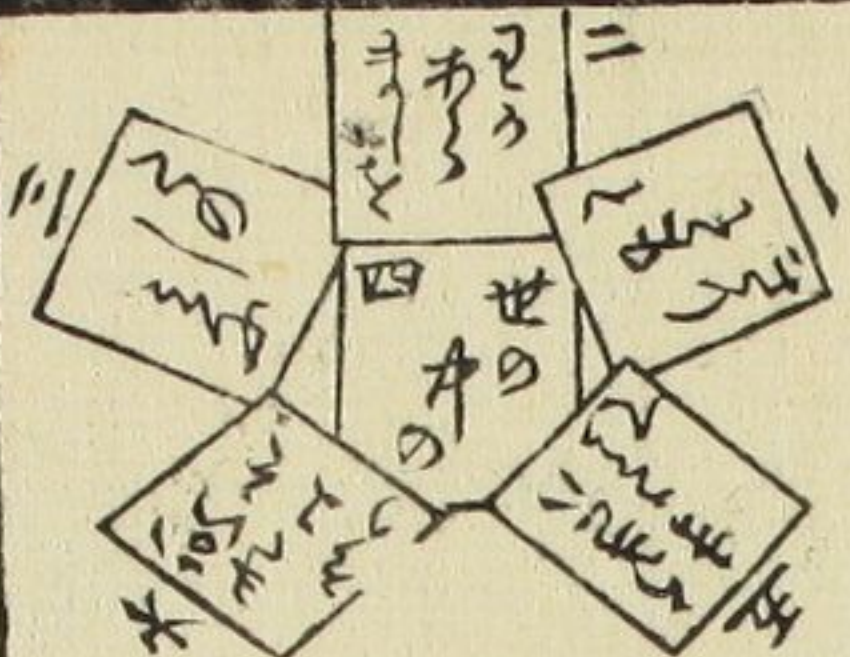
榎本九人



山色赤人



旋頭歌



折句

- か かろころも
- き きろれは
- つ ははあれが
- え えろきあ
- と とろあ

以用交之字中由若今のめく際

有異風森由と交念之事也

日志斤時鳥秀乃所之存也

榎本九人前のを海山にそを記を撰樹に松の茂りやいゆる

和歌志流作人九赤人

之古風未究長歌短歌旋頭

既本打句尚冠之風情猶也

傍類打韻落歌之辨

榎本持統文武の二類小使一人之赤人の山田氏正六佐

上宿称表を社毎の以の人とまをせ上世の分はあり

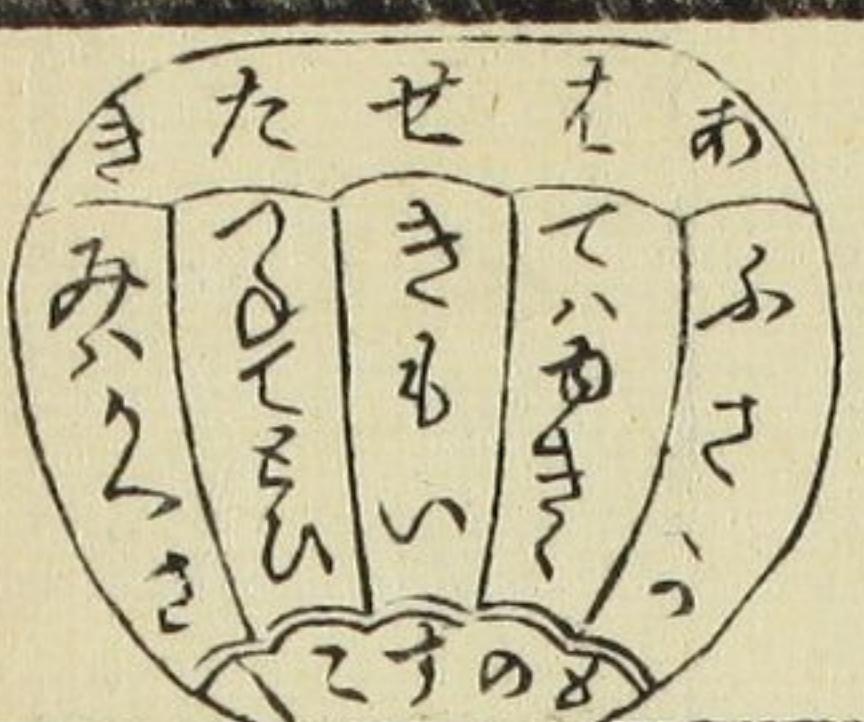
之類類類の法流園くにて一変一がに或流小長考ら

之千一文字考のあといふ件初のみ文字より終までをいひ

報本



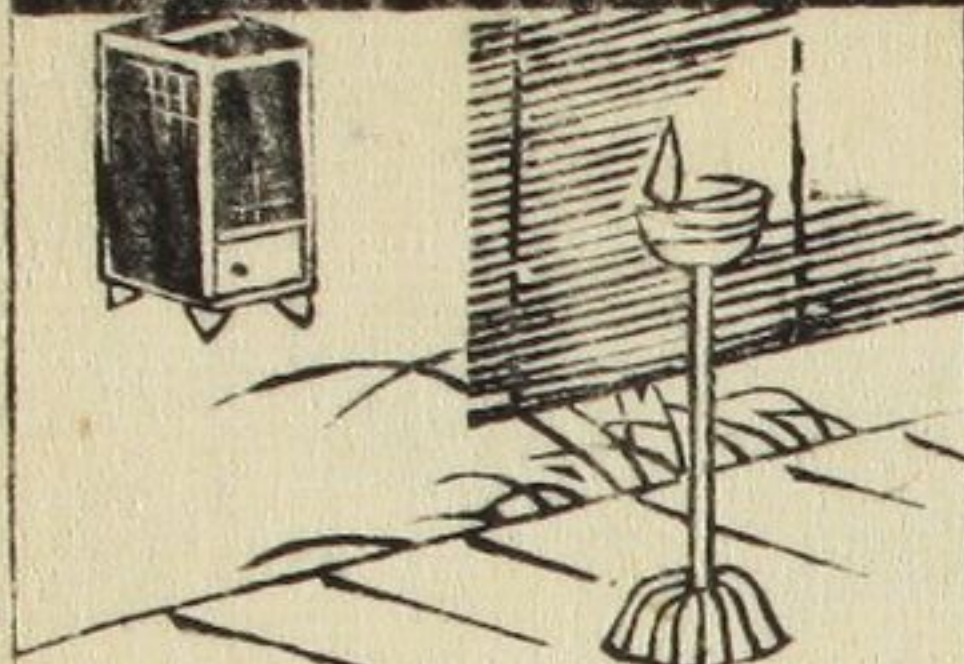
當冠



猿猴の似人



螢火精燈



うしほは死見けて玉藻うるはとわうり白紙くろるゆり
るめく▲泥本はたの外にふ文字う七文字う白紙くろる
安臨傳抄がふお紙がほのまうけまうだちりやすはむ乃
名をじ▲折りふ文字わる物の名と毎句れ上ふすまう上
むくを系業平がわらつふこといふこととよめるお「か
まうるれふし法まうわれまうまうるたびうぞまう

▲當冠は十文字の物の名と毎句れ上下に並てよむたうり
仁和寺の念書すじとふととぬまうはおあふこのそ
たてへお紙のせきもいびふがひてふことまうるさうし
福田はと文ももりまうるふによふてもはしきおこい
ともはわおふつふくおくまうるへもともはわおふつふとわ
▲傍敷は家の敷うり敷のまうすして漆物の飾るまうふ
徳分秋あしうり敷うり敷うり敷うり敷うり敷の漆のまう
うその袖わうり敷うり敷うり敷うり敷うり敷の漆のまう

人丸の外に「君代乃え」うぎきたえ「よかひくど
極一佐吉の松▲落敷は是も家の敷うり敷を「あゆぎ
落てとまうるうり敷うり敷うり敷うり敷うり敷の漆のまう
まをこまおむびうれふいふと人にあうれうり敷の漆のまう

落敷は傳寫の撰るまう一落牛おも是と家の敷とすま
くまうるまうるまうるまうるまうるまうるまうるまうる
もゆまうるまうる
んくまうるまうる
家江家くま流文字と考者紙
待辨句まは波菅

お紙

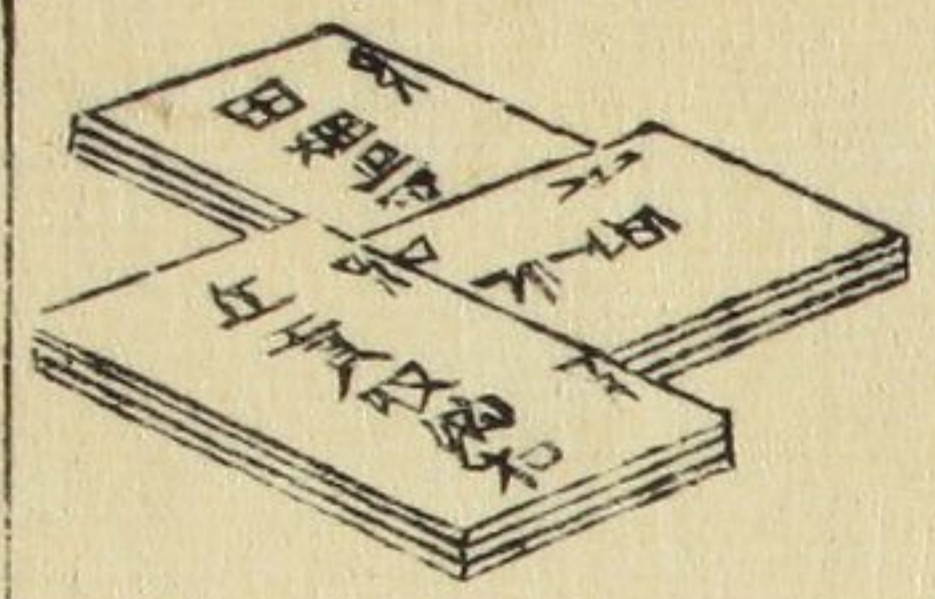


落類



沙汰人

取帳納法



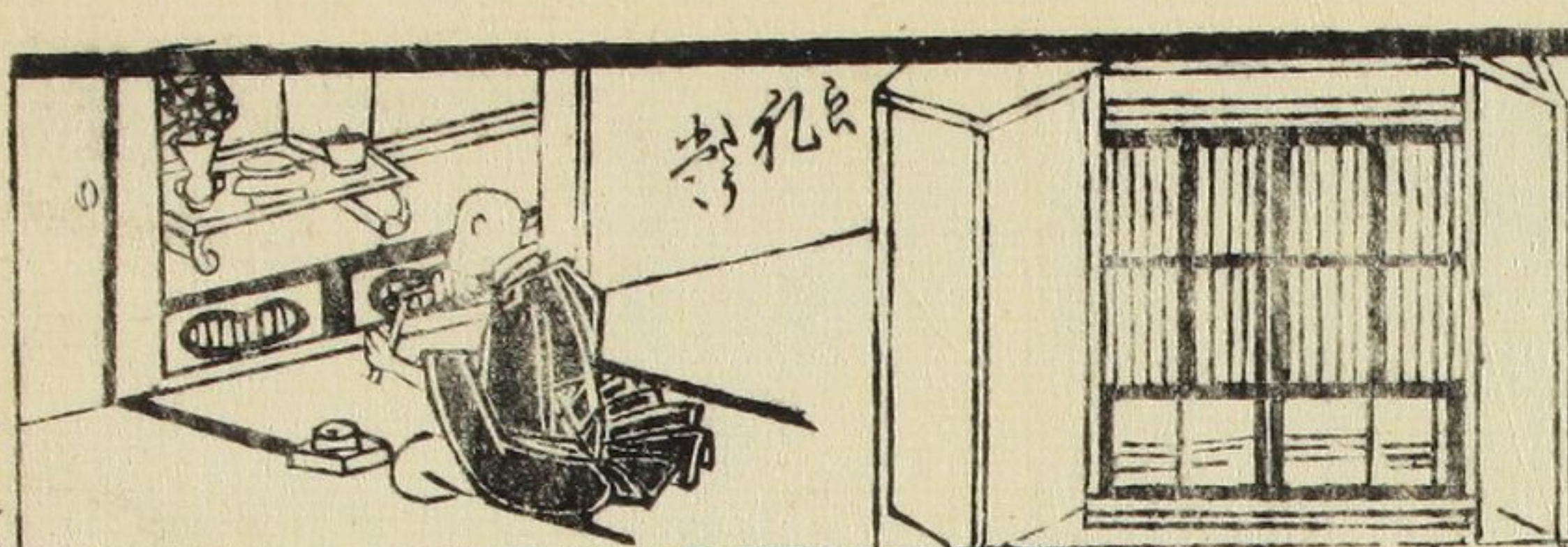
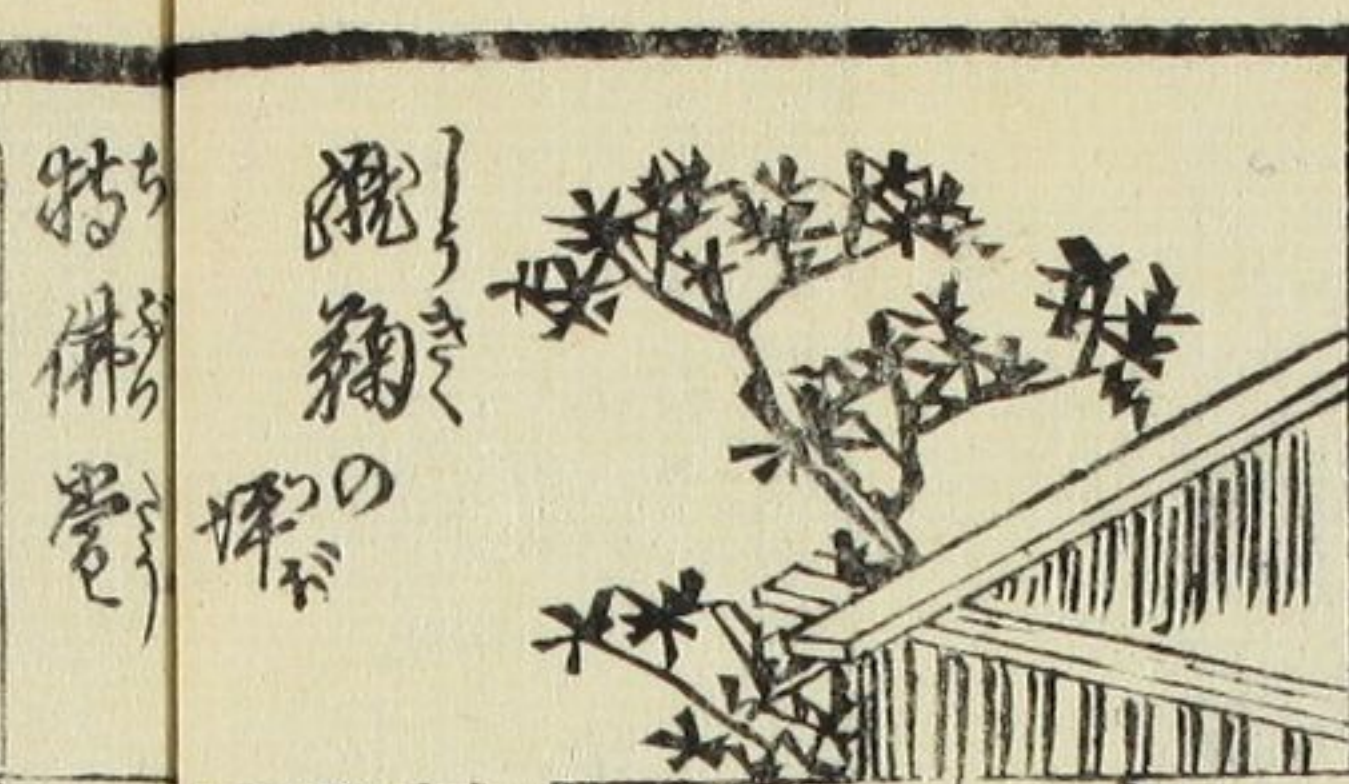
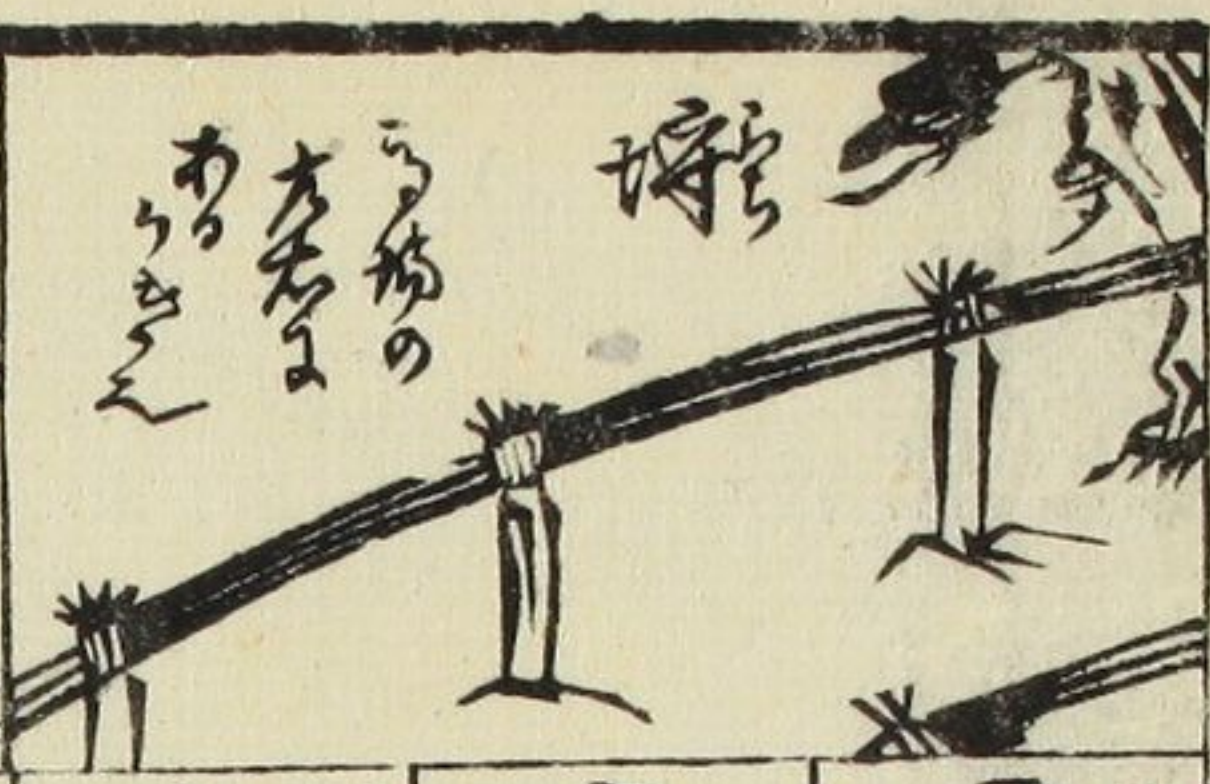
忘くほ云

忘くほ云 一 振筆の紙をどと云くは云く 一 振筆の紙をどと云くは云く 一 振筆の紙をどと云くは云く

意文 一方より何れも云くは云く 一方より何れも云くは云く 一方より何れも云くは云く

二月廿二日 監物丞源 後上 弾心忠殿 遊返事

後上 弾心忠殿 遊返事



大垣を内可^ち用^ひる築地^ち棟^{たけ}門^{かど}

庵^{いん}門^{かど}志^し有^あ斟^{しん}酌^{しやく}之^の儀^ぎ於^お於^お柴^{しば}門^{かど}

上^{かみ}土^{つち}門^{かど}業^{わざ}醫^い門^{かど}之^の際^{さい}可^か斟^{しん}計^{けい}

之^の寝^ね殿^{でん}之^の厚^{あつ}菅^{すげ}葺^ぎ材^{ざい}庇^ひ廊^{らう}

中^{ちゆう}門^{もん}後^ご之^の裏^{うら}板^{いた}葺^ぎ儀^ぎ也^{なり}

今^{いま}取^と國^{くに}棟^{たけ}裏^{うら}之^の間^ま学^{がく}文^{ぶん}所^{しよ}公^{こう}

文^{ぶん}所^{しよ}政^{せい}所^{しよ}胎^{たい}取^と葺^ぎ儀^ぎ也^{なり}

初^{はつ}尾^び田^{でん}門^{かど}之^の後^ご板^{いた}葺^ぎ儀^ぎ也^{なり}

第^{だい}菅^{すげ}葺^ぎ材^{ざい}之^の儀^ぎ也^{なり}

之^の儀^ぎ也^{なり}

之^の儀^ぎ也^{なり}

之^の儀^ぎ也^{なり}

庭訓譜

三十一



名炭鉄石居被治令造作也

作木子家修理職人之名

巧匠新多修居被治令造作也

上之右日名保治陽頭可被

定下 一 双座の斧之 一 鑿之 一 鋸之 一 鋸之

新の木とてつて 鑿平にまきりの上の具とて

匠の法とて 一 修治職人 一 匠の法とて

支那下之木子工修治職人之名

大工とて 一 新木の修治職人之名

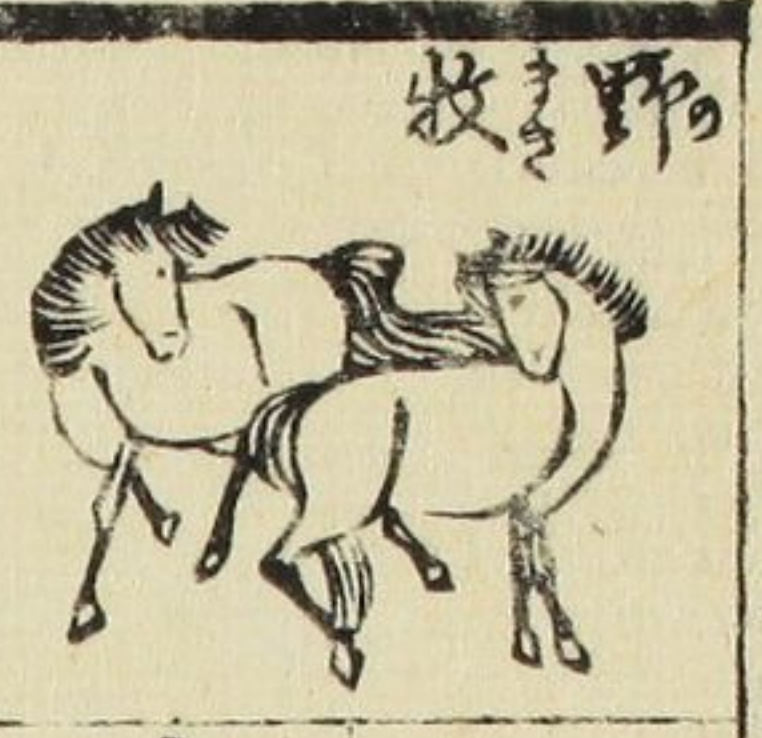
匠下の石とて 一 匠下の石とて

匠下の石とて 一 匠下の石とて

匠下の石とて 一 匠下の石とて

三十一

三十一



廣言講新

三月十日 左衛門尉橋

進上 舌蕃元殿

▲左衛門尉の正月進上
十二月廿五日
橋本左衛門尉天守天守
十二月廿五日
橋本左衛門尉天守天守
十二月廿五日
橋本左衛門尉天守天守

久不修業固之者不審子弟

何條沙事山家作沙領其以

之能黎民寔於之輝厚百姓

之門亦再業繁仁政之至所

政也貴爵嚴を知人之堪者

理非分明礼物之好也名可

氏以備也心存實實之校強

不好之化修名所領靜澄之

英訓博史

三五



其也吹毛不可求也

▲黎民之民也云▲於方極厚之於食之會と飲く煙乃改

さるとの民家を以て安んずる古くはたうたふのりりく

とては煙くらの民の室にほひおろしとく▲東の業際ハ東

作より為収ふつるを業の繁昌するといふ▲貴野最を

とては若と獲英一悪人の罪をたすよそのの煙をにらる

てはさるの敷くくるといふ▲煙はさるにたかこころを

いふはたかこころはくはくは伏してよりまをくがく之寛宮

はさるくまをむとたむゆりりくとせせりくせぬく化傳ハ

志と先を免くまをくまをく物不備固く後をたれといふ

るど一吹毛求ふ毛の煙と吹聞て思ふもねねと見出た

人若く改めおする敷くけはき却て其の出まるといふとく

あり後村集る津内敷玉の由ふふあはれおたかぬれ校も

ゆりゆりの毛と吹きかきせん 凡先日被作市町

興の也船云岸津舟持山漁

捕河得野牧の室は道道乃狹

市町志道道子小踏之擗見

世棚絹布之類箕菜子有賣

養子



樂獅子翁傀儡沙琵琶法師

徐清子傾城白拍子遊女夜

夜之夢

つみ大工の棟梁之

あり

せ

種

▲藤橋師の本橋

▲本橋師の本橋

▲類

▲中

▲婿

三川毒丸

三十五

聲の師一念あるを名僧換断所

勢沙法人 陰陽師の日月返快よんめ 指縫物師 衣裳の指縫補修とする者なるべし

武藝の馬御柳あすとすべし 律宗の達磨尊者の法流日本こそは後身相院の淨空僧堂西入室として傳ふる

律宗の總多之義の法流日本孝徳天皇の淨空僧堂和為入於して弘免ゆる 聖徳法義之徳天皇志云木の信の

友佐に昇る宗龍とあやそ 降古宗なる時大師乃法流日本五ては浄門院の淨空法後上人達之は徳西山乃

二派あり 碩學文一學に達し 一人とてのふ 教ねは天台 聖高岳大師の法流日本こそは極式天皇の淨空最徳

入庵して傳ふる 聖宗の法流日本こそは極式天皇の淨空最徳 入庵して傳ふる 聖宗の法流日本こそは極式天皇の淨空最徳

の三極あり 學生夜に八學問と勤る人とのふ 牙子あとの 義にわたり 修徳の若くは小角の末流として山伏之

二派あり 天台方と本山と云ふ云方と當山とのふ 効徳也 僧ハ乃力堅固として奇持ある僧とのふ 智者ハ心不著る所

あるとのふ 佛在世の時舍利弗ハ智慧才とのふ 上人を 内に徳智有り 弁小修徳ありて人の上に向るの稱之 紀典

と本紀史記源出の類歴代の典籍とのふ 仏經乃經傳 佛の書とのふや 明法學士六律令格式と貯る治國乃

法度と貯る 明經學士六經書の法理と貯る 聖賢の法 と捕はとのふ 學士六經學士とのふがと 傳説後法宗

と捕はとのふ 學士六經學士とのふがと 傳説後法宗

庭訓講新

三十一





匠師二月の快中に見ゆ
 小若とつけて徑を痛む者
 僧多意に可若方形と志し
 捨つ西勢沙汰人ひりに
 清書百葉案子書ま名能
 不能書梵字漢字連者実才
 利名若辨古物類魁信仲
 人若も天切也振指有屑之族



下るはれと夜毎事切後日
 心は地云
 いたは文字と括り
 梵字の字
 西之
 利只
 人若
 文意



あれは法人の扱はた概定に... 市町田敷の... 却て... 大... ねて... のの... 後... せ... せ... せ...

卯月奇

希来女心



中勢逆殿

卯月、卯月の... 中勢逆殿... 上... 下... 中... 書... 人... の... 采... 女... の... 位... 下... にお...



被... 下... 上... 名... 貴... 勢... 力... 人... 任... 山... 平... 就...



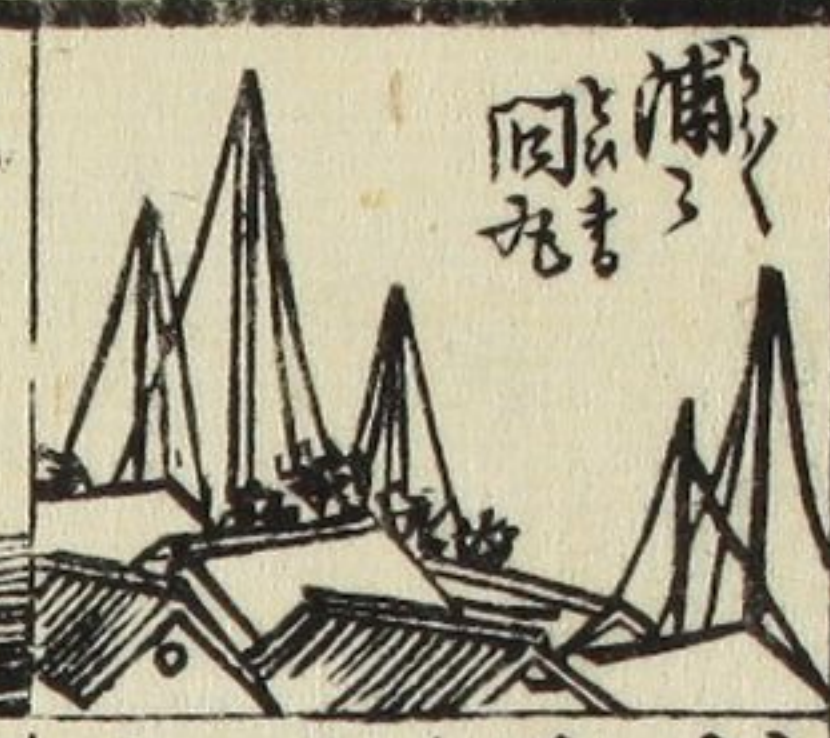
先... 方... 希... 来... 女... 心... 希... 来... 女... 心... 希... 来... 女... 心...



買... 津... 東... 今... 号... 乃... 以... 交... 易... 合... 期... 公... 私... 潤... 色... 何... 事... 必... 之... 成...

大坂

三三六



浦廻り



担荷



手廻り



尻廻り



船廻り



大廻り

浦廻り 七度之店ハ意物ノ東米若坊ノ夜業ノ七度廻リ
て榮る也ノ事也 薩家嶺ノ船人ノ七度ノ事也
交易ハ米ドクノ事也 船ノ意物ト云ハ船ノ意物ト云
る也ノ事也 合船ト云ハ船ノ意物ト云ハ船ノ意物ト云

定役ノ事 臨時保役月迫上

分第季季ノ於交子ノ適遊歎

凡東町人漢も人種念雜物

宰府交易宗室兵庫船頭濱河

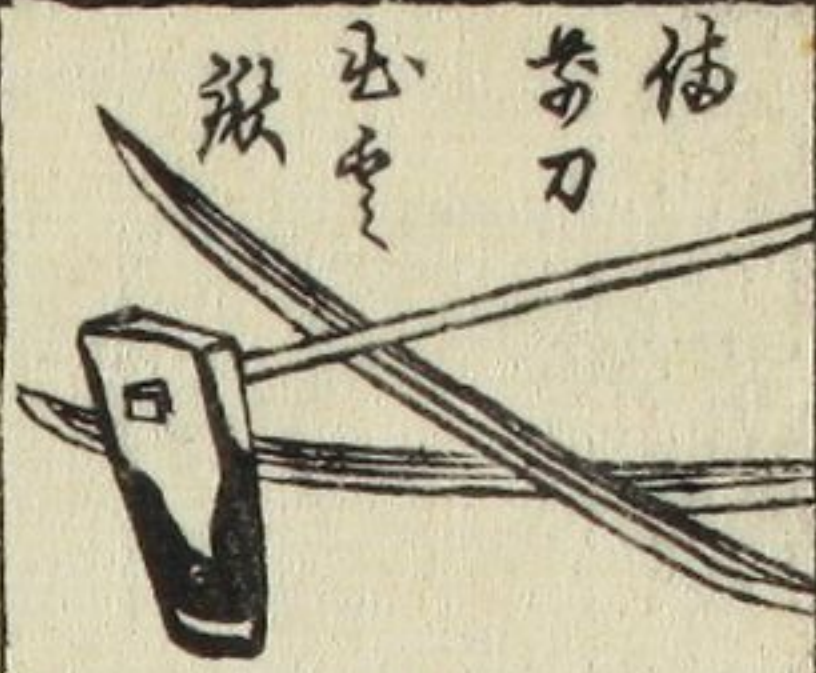
尻刀祿ノ津坂車馬傷者利

白河車借泊借上港ノ船務

浦ノ回九回ノ刻舟ノ事ト云任

佛戒道送之 定役ハ定式ノ公役也 臨時保
役ハ不時ノ事也 かりて保する役

月迫上ノ事也 兼食ハ船ノ地名也 宰府ノ船業
ノ事也 揚州ノ事也 揚州ノ事也 揚州ノ事也



▲仁和の眉作の城州中山ありむう比丘尼くら僧く
子業に眉をれと作れしと云く▲此寺も高寺仁和
四年光孝天皇の勅形ありて寺を世にと置帯し徳
僧のまゝり比丘尼の住持ありしと云く時を以て後考

わぶしと関牛箱いれき▲婦小崎針ハ古流ハ聖徳
太子の御婦裁田姫と申はうとてあておをせしハ内親の
住居ありて山城にありて針を造りてせりしと云く
そ名所の振之如河▲此寺も本芽法務あり山城の比古流

友に山城の木の皮を剥き煮液て賣りしと云く▲硫磺島
吹布現れも山城之島吹布ハ福居芽の撰りしと云く▲東
山福山寺ハ山城の北山あり海海藻と云てとらりてんといふ
これとも硫磺も福山も海辺にありてこれらに硫磺島

小大懸菜と云て大根ののりといふこれ亦大根と申はれべき
中うあれも大懸菜と云ても程とらりてんの裏にちじ
也何▲加賀宿の下の小松よりも出るしと云く機をり磨く文
も亦長しと云く▲精好のよき宿といふ丹後美津より出る

大馬路小坂より▲美濃上品ハ芥川より出る布ハ内親乃
所幕に帳る丸布ありと云く▲尾張ハ出ハ精細▲佐治布ハ
常少てさういふと細く色白し俵小布といふ▲常陸袖ハ
赤橋より出る布に滑ると云く▲秋田切付ハ六月返状乃

西に流ハ檀紙ハ鎌倉ののり松系に似て厚く
横も裂るたり▲秋系ハ信濃のり入といふ
刀も雲霧田斐約長門牛炙
備前

庭訓譜

四十二



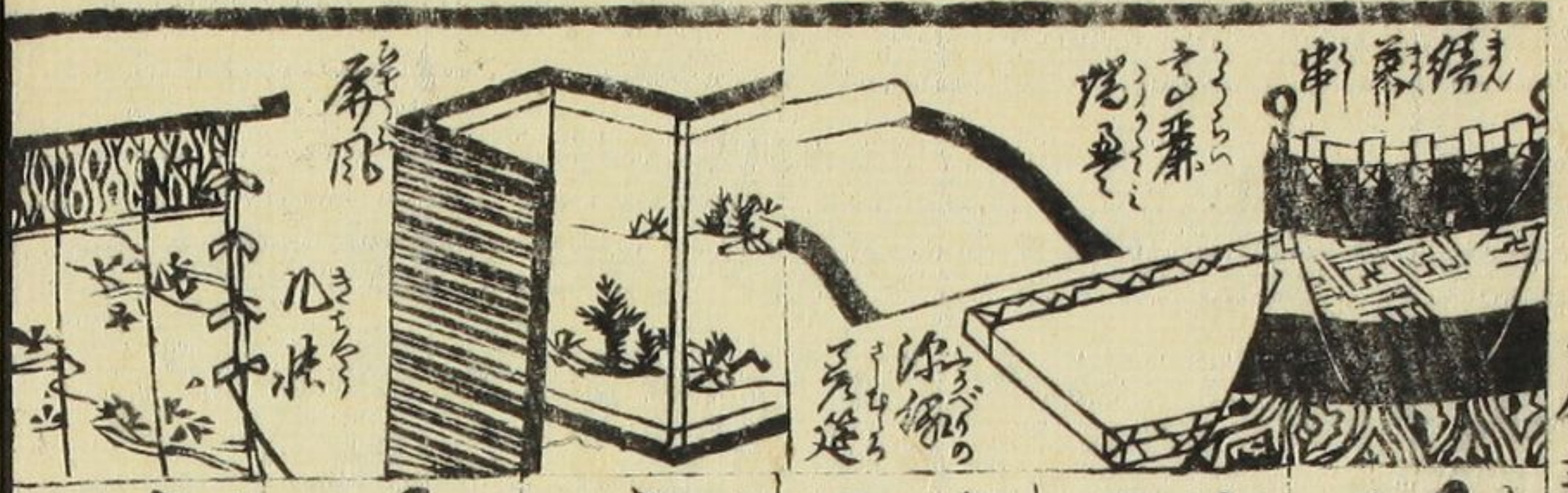
州令備中鞆城後地門隱岐
純用防轉近江御濱輕七佐
材本安藝枿枿登谷河内瑞



▲備中河内の打物▲出を鞆のりいふを枿枿
▲甲斐の御酒は必よき酒と産以聖徳太子の
なれる神産物も此地より出る▲本門本代田庄の産
む一系又右の枿と引せし今も此半物とを▲栗物全
ハ岩積枿佐太より出づ昔者徳天皇の御宇始これ
となる▲備中河内細谷川より出る枿と出せしとを



▲鞆城門の枿と引せし▲近江御酒は必よき酒と産以聖徳太子の
なれる神産物も此地より出る▲本門本代田庄の産
む一系又右の枿と引せし今も此半物とを▲栗物全
▲七佐材本細より出る▲中より枿出は▲安藝枿の産
より出る材本とする枿あれ枿の字ハ枿車より材本の
かしこれハ屋根板おはきとるやゆを枿の字あり字の
ゆるゆゑ枿とるゆゑとるゆゑとるゆゑとるゆゑとるゆゑ
備中酒和泉砂老杖推察府
栗字が昆布松浦枿栗枿
浅花茶穀或実ハ唐物也素



物物必雲似霧
▲物は酒の底の宿りて
造る▲若狭推の境山に

▲一年に二度実のるん▲宇賀の振夷が地
▲松浦の地

▲交易の利潤老越也
▲交易の利潤老越也

條六條之辻往來出入之貴
▲條六條之辻往來出入之貴

儀志不果系於種余凡涉飲
▲儀志不果系於種余凡涉飲

卷鏡而甲乙人富者有底作
▲卷鏡而甲乙人富者有底作

私凡為常而上下己非妙也
▲私凡為常而上下己非妙也

意乃涉下向可有方後就演
▲意乃涉下向可有方後就演

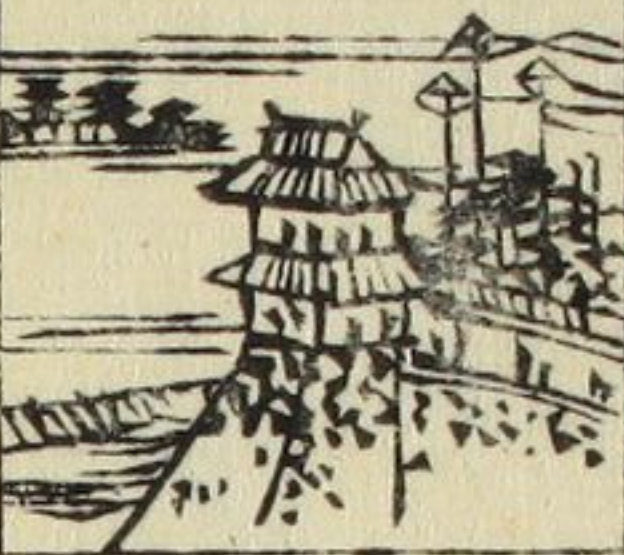
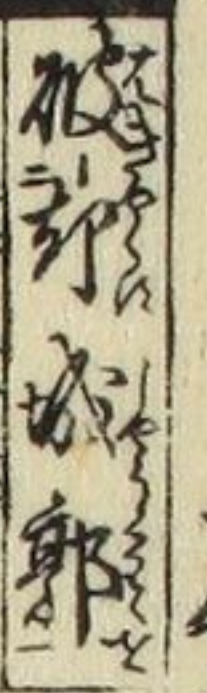
從進涉遠才力者之好么
▲從進涉遠才力者之好么

▲田條六條の九をの初小あり持店とつて種て種中ちある地

▲系初ハ天子居一う小地之種念ハ初初トトハ成長就主

▲十七代お年居の山一雨たて種も種も種も
地と種とつて▲甲乙人甲乙人乙ハ種民城以ハ

意文



遊技城陸



志新鏡



宿也版巻



系香



標



貞言の技持を蘇らねばは乃孤辱はかこれ何
 とそんと海より一生涯の仕合あり指しつゝる客来
 して危前懸ひけりやの卒尔の短笑用事仕去り
 されば女心の望もれどもは借をいさらば憐幕下の君
 ろんよりの世越しより飛よ海文のあゝ使者や中御小
 わけん我臣仕あ老たつれもあつゝる群や忠告夜乃
 他法をむねくも人をも解くそ縁つぎうゝのゆも
 我のやうにたげさの敵は身指さつゝるあことあり

六月九日

左系を奉

進上 藏人将監殿

▲藏人の御座六正六修上にお出する候▲左系進大あり
 大に段六位下少の七位下にお出は座名は系非司録と云

▲平八天長二年曾不親王の嫡子大學院
 後四位下守孫五小孫で初りり一姓あり

不審字方之度玉奉取お奉

又々賜符著以役返被御福也

尤女中由也極容人光膝緒接

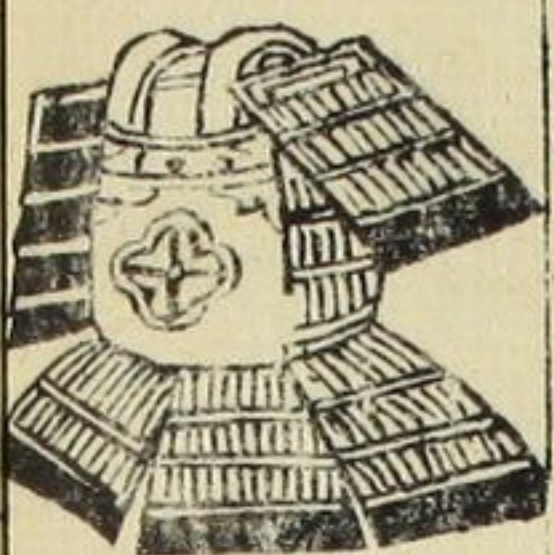
奉先空家以取法借用之具



文荒目筒丸



樹燈目鏡



長持所持之方志可進也

燈臺少新燭燭燭燭燭燭

江文所進也

▲常規ハ四月の進状ハ...

▲是月ハ後江家材...

權宗宗味...

秋料海月...

志平鞆園...

嵐守物志...

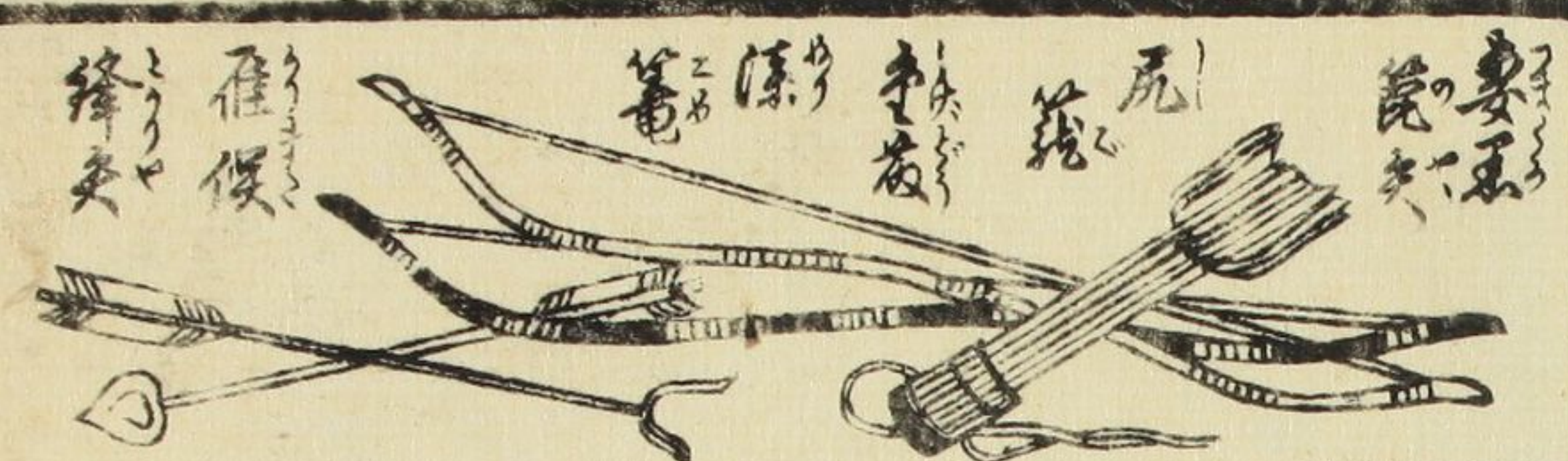
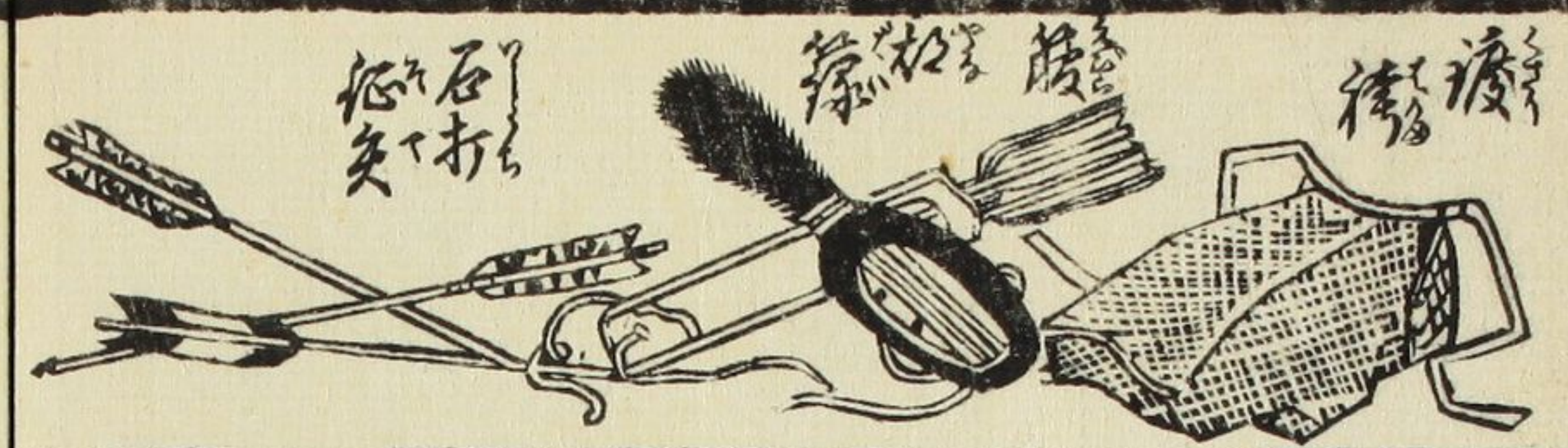
直瓶先石...

鳥一番

▲能米ハ...

英川講尺

五十二



食料之伴一斗の字、巻くべし。俵之、梅干、古来、やと
別り、以物大なる、六七寸、形、全、種、抗、多、く、一、く、海

前に似る、目、ある、若、海、前、と、名、く、殺、肉、も、多、く、海、前、
松、葉、津、煎、の、海、中、に、あり、牙、肉、と、骨、と、七、化、邦、も、ある、

干、種、ハ、種、名、の、り、く、▲、魚、鮫、ハ、全、種、で、乾、く、る、絶、た、う、
今、の、白、干、は、比、▲、魚、鮫、ハ、及、小、魚、肉、の、乾、く、る、以、以、

▲、海、前、ハ、海、前、と、考、す、干、く、る、り、の、り、▲、鮫、ハ、比、せ、び、
と、も、の、り、の、り、の、り、▲、五、條、魚、ハ、本、名、強、強、魚、と、い、ふ、所、白、魚、

の、り、の、り、魚、形、細、く、又、鮫、白、く、て、お、の、づ、う、強、の、形、乃
い、く、な、ま、る、く、情、物、志、は、其、五、條、魚、と、食、し、て、を、妙、味

と、い、ふ、棄、る、お、化、し、て、は、魚、と、成、る、魚、も、多、く、と、い、ふ、蓋、割
海、前、ハ、種、と、以、て、五、條、魚、と、せ、し、う、皆、使、て、種、也、と、い、ふ

の、り、の、り、魚、ハ、名、り、は、▲、水、魚、ハ、名、り、は、魚、ハ、名、り、は、魚、ハ、名、り、は、魚、
一、て、い、ひ、る、魚、ハ、一、番、ハ、強、強、魚、と、い、ふ、二、羽、と、い、ふ、り、

塩、青、志、乾、之、干、鮫、名、作、乾、鮫、
一、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、

別、種、塩、く、蘇、翰、種、塩、漬、干、鳥
一、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、

干、免、干、素、干、江、海、魚、焼、皮、態
一、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、

孝、程、江、海、様、本、名、考、智、味
一、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、

海、前、腸、種、鳥、種、考、理、業、味
一、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、ハ、名、り、

海、前、腸、種、鳥、種、考、理、業、味

五十一

左系進敵

大正八年二月河保親色の子七出、能登人平
比らて初りし時あり、音人の相とて孫に傳へ、才の人あり

此間も依連、物も生息を

雑候、殊不意、之を抄世

既而、靜澄、之る為、精進

欲、企、系、入、心、之、愛

謀叛

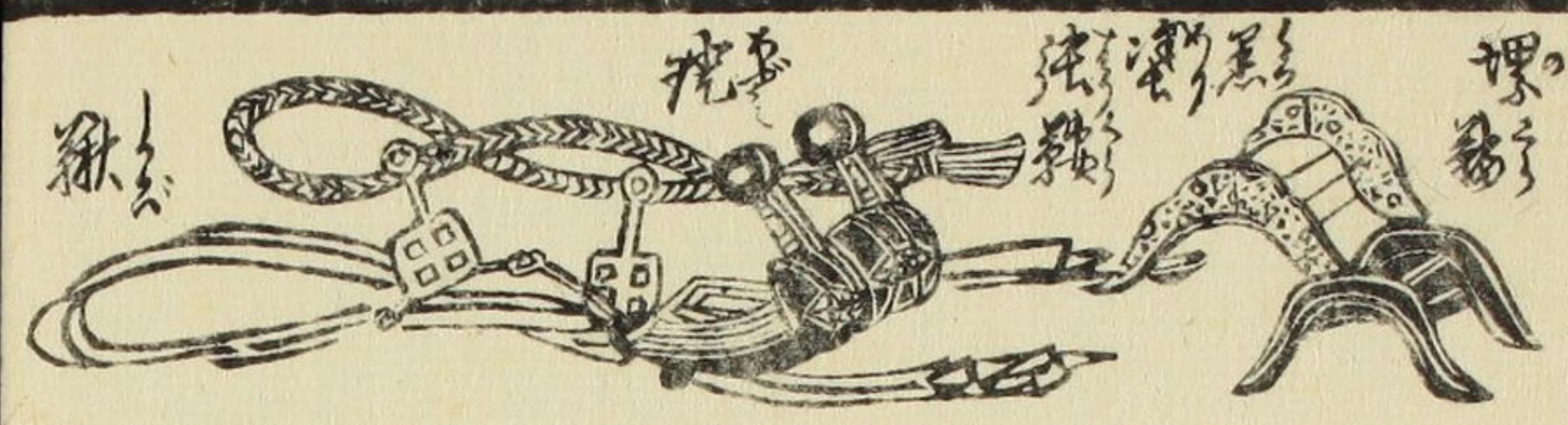
互、送、之、凶、徒、也、集、案、之、率、盜

械、狼、藉、之、五、案、案、之、持、紀、子、也

山海、之、械、強、竊、一、盜、與、此、案、令

横、乃、干、所、之、奪、奪、之、人、之、切、有、進

捕、七、氏、之、夜、定、判、之、孫、人、之、衣



狂文彦夜



初



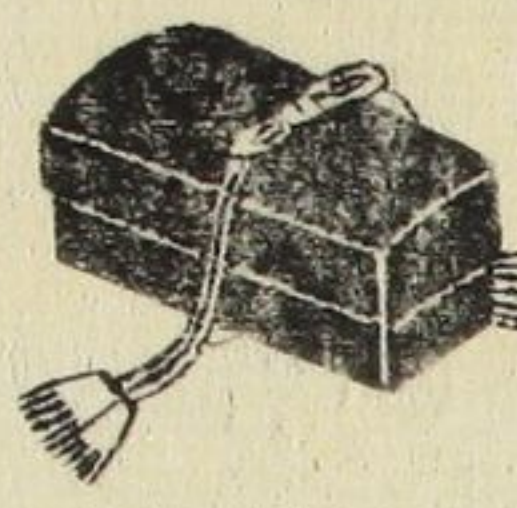
目結巻深



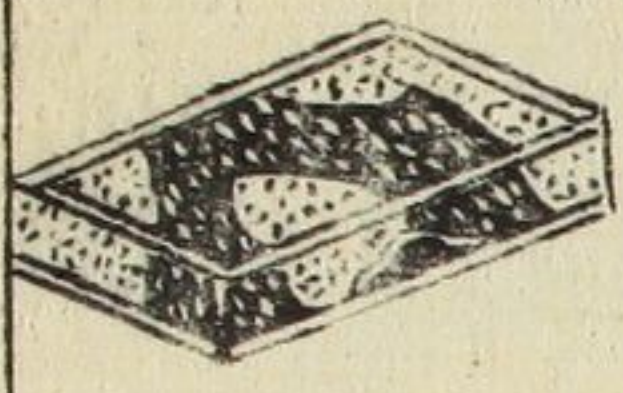
掛



綴



御



五言詩

我門小くして頼光の役目とくを念く▲門前八門
の廣くをびこる成亦乃枝多ありたとして時のたより

然中將軍家もは教書も教書と

上下治事頼光の護出之際内

戚外戚一族と一揆者也

伏せりるの頼光の制數十程ありて式をめぐりて大抵今
の制は六幅七尺七寸又然とつは是と負ふ事には頼光も乃

おわりの其際橋はひう一渾の櫻崎出陣の時を母夜と稱せ
妙別とせしは頼光にけり我ひしより後頼光の良共の

是と利もかどと▲頼光子の御統へ稱しして日月の夜と
織るは長母とまはすと尺とと幅之然かハ練と用ふも頼

定まらば大抵は又ハ尺と二幅之田かか頼光氏ハ
白きより一文字一文字紅赤色より一文字一文字

白黄氏ハ赤より一文字一文字黒色を其の頼光氏ハ赤より一文字
一文字一文字赤より一文字一文字黒色を其の頼光氏ハ赤より一文字

赤より一文字一文字黒色を其の頼光氏ハ赤より一文字一文字
赤より一文字一文字黒色を其の頼光氏ハ赤より一文字一文字

▲一揆多しハ親
族一味するものみ 且依我功之忠臣也

酒軍忠と清源欲治朝因に

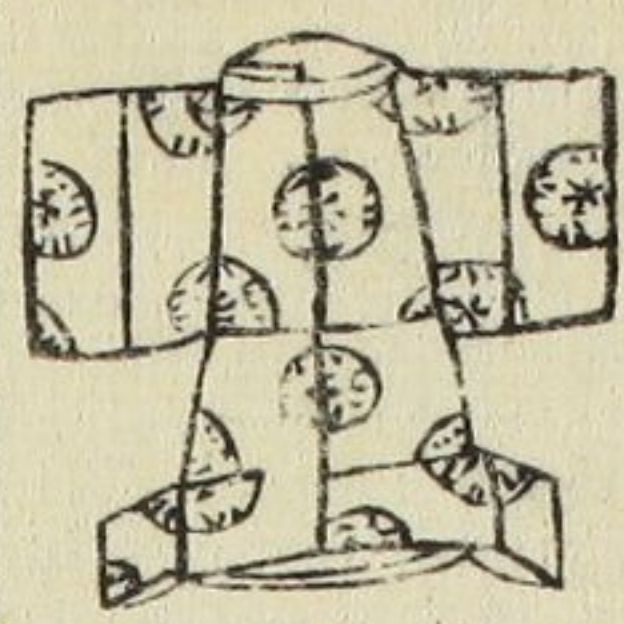
五言詩

五言詩

冠



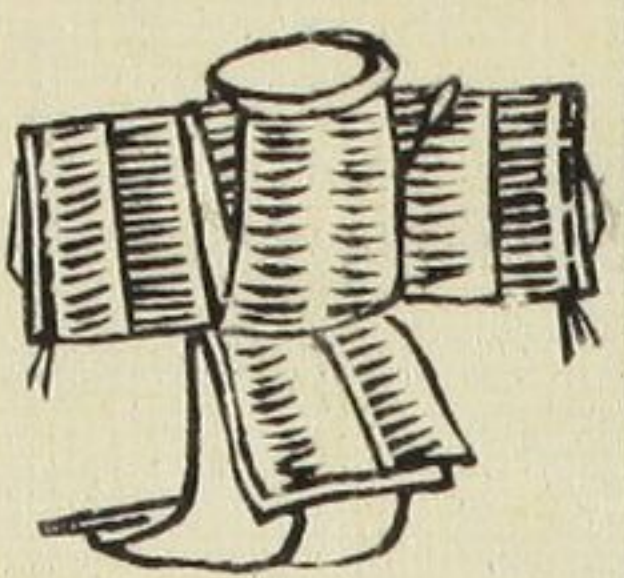
袴



水



袴



袴



袴



後代相傳之分領一所幾令已

地者不可有也遠者氣係不

願傳令不殊心應以傳作治

許容忍之治云

大なると云ぬ中乃たありて漢源の差何るといふ

後代相傳之分領一所幾令已

地者不可有也遠者氣係不

願傳令不殊心應以傳作治

許容忍之治云

大なると云ぬ中乃たありて漢源の差何るといふ

後代相傳之分領一所幾令已

地者不可有也遠者氣係不

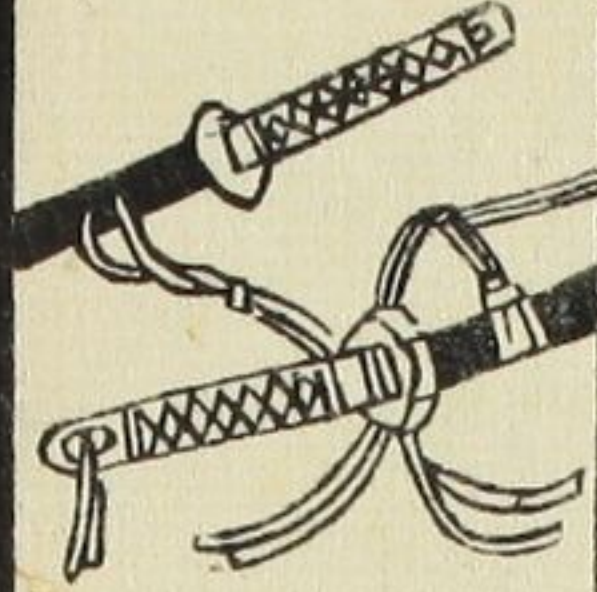
文意



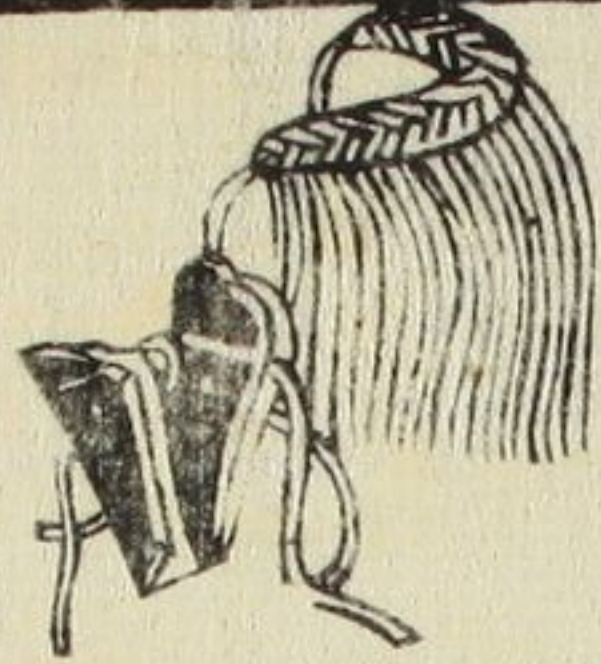
袴帷子



袴刀腰刀



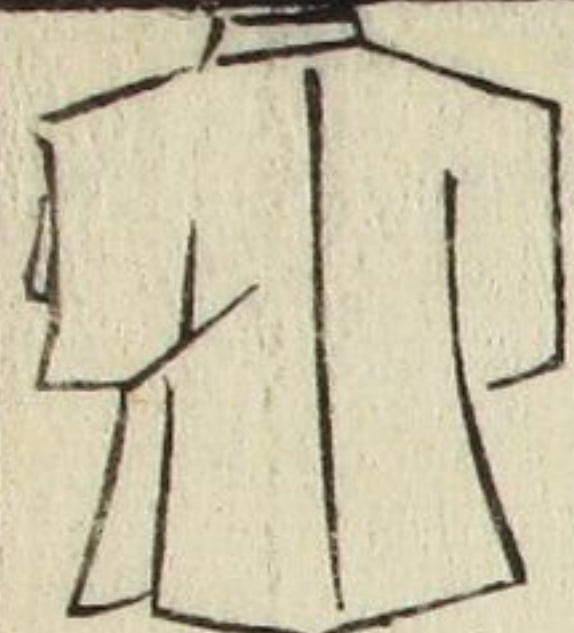
大星の腰刀



大星の腰刀



大星の腰刀



此れと申せん程中お申家の由中知り候事一紙より
 櫻桃を申されしと申内我利我の一族等て御ん
 こと擧ぐる合戦の事柄は身より候事由申すも
 かねとおあり候代と候事由申すも我利我に
 引續き候事由申すも子細あり申すも候事由申すも
 頼りぬ申すも候事由申すも申すも申すも申すも

六月七日

勅命由次友小所

後上後友兵部丞殿

▲勅命由次友の返書後下にお書候事由申すも
 友の下司あり▲小町に候事由申すも申すも申すも

後上後友の返書後下にお書候事由申すも
 友の軍兵部丞利仁より交代の孫孫と申すも
 是を申すも人▲是を申すも申すも申すも
 言候事由申すも申すも申すも申すも

後上後友の返書後下にお書候事由申すも

友の軍兵部丞利仁より交代の孫孫と申すも

是を申すも人▲是を申すも申すも申すも

言候事由申すも申すも申すも申すも



庭訓

庭訓 庭訓式令旨官符官符堂之記
今指南 今指南は南を天子の宮にあり 院堂
院堂は南を天子の宮にあり 今指南は南を天子の宮にあり



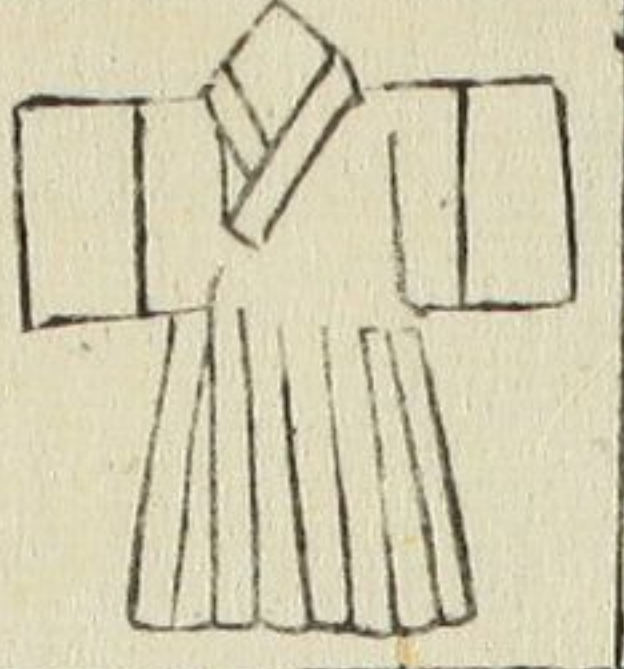
白

白 白 白は白を天子の宮にあり 院堂
院堂は南を天子の宮にあり 今指南は南を天子の宮にあり



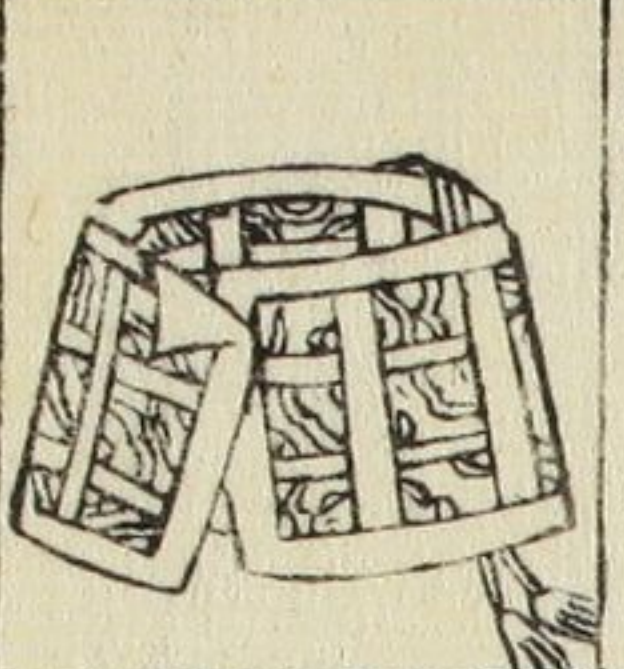
紫

紫 紫 紫は紫を天子の宮にあり 院堂
院堂は南を天子の宮にあり 今指南は南を天子の宮にあり



素

素 素 素は素を天子の宮にあり 院堂
院堂は南を天子の宮にあり 今指南は南を天子の宮にあり



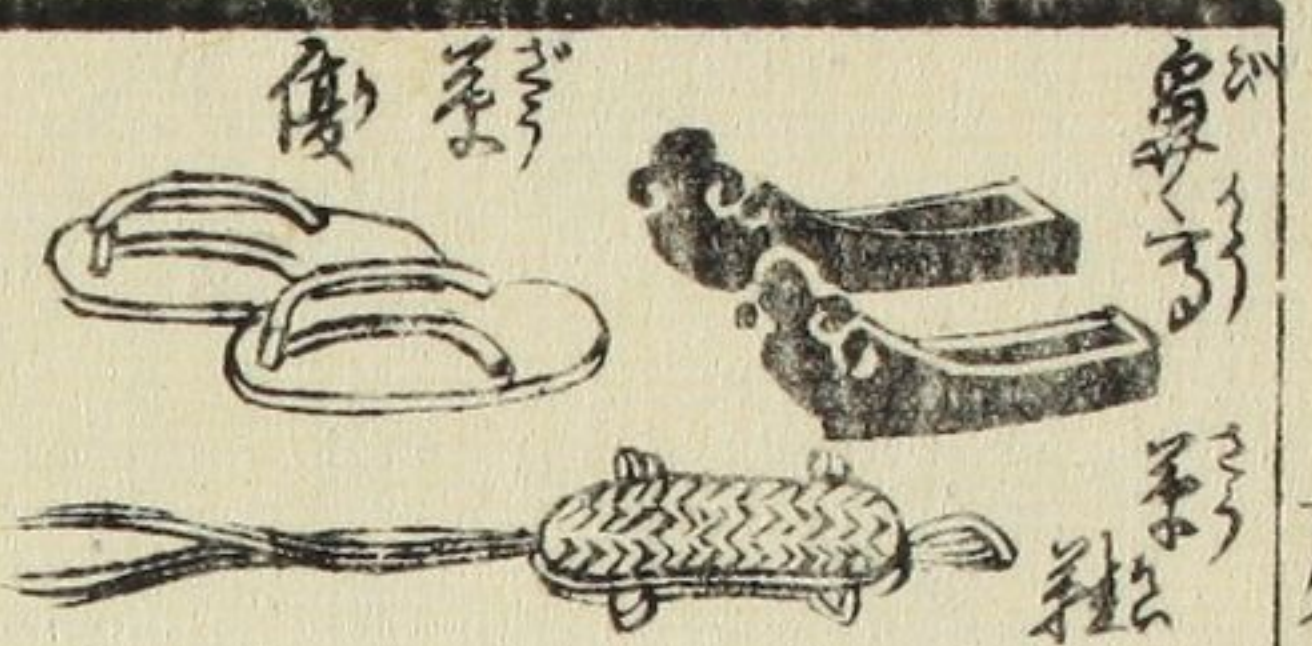
袋

袋 袋 袋は袋を天子の宮にあり 院堂
院堂は南を天子の宮にあり 今指南は南を天子の宮にあり



法

法 法 法は法を天子の宮にあり 院堂
院堂は南を天子の宮にあり 今指南は南を天子の宮にあり



の甲方中箱の篠番ゆるゆるの者へ箱又の白篠の流死する
板を打くるやいひ一とをせし一甲八男に作る一甲ヨロヒ
たうカストに刺む候より一刺へ胃可なり候一皮
一枚とす既とら虫て可なりん一刺へ敵の胃と指すゆ
る候一ははし袖と八體の綴と等し此の房の單あり
▲手蓋の打の先は付くるも甲の居候を指す候
あしに作る▲揚南の篠立付十五尺馬刀門木を介敷
あり▲中身は編むれ男の既と皮と頂と蓋とを二張
わり▲延懸むりへは手懸銀り候ゆへに
今も教お仕付け鉄滑草あまをゆる天板と等し▲後橋の
今のお湯色候指のたを一篠小篠令候候
とて作る候持候多し▲逆懸候あり

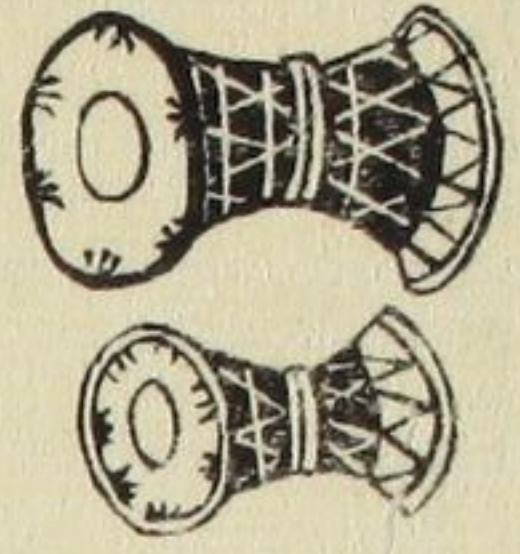


篠石打心矢筋切并書馬矢
矢鶴羽鶴白木尻流流
羽石股髻羽鶴矢各ね具腰
南弓矢矢中重為流流系重系
也加弦也山年

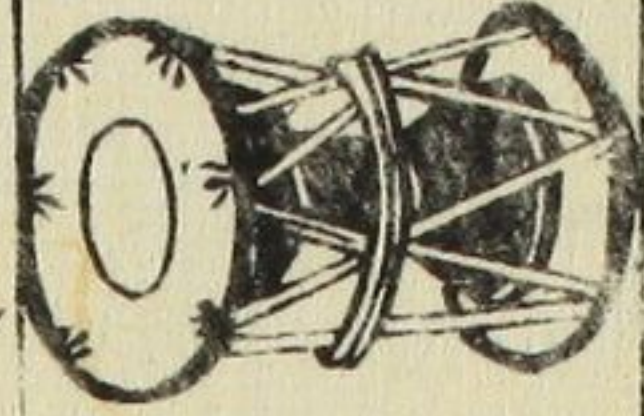


▲於篠の後よゆて流相あるゆへに是亦お教わり矢紙
数流あり矢と挿はしと女口筋或は矢筋のことともわりとど
▲後ハ矢と成りて背よはる
▲矢は矢と成りて背よはる
▲矢は矢と成りて背よはる

鼓



摺



刺



孫



將軍家義
侍新之
松

武士



馬志連獲第毛棋子

栗毛烏黒鶴毛黒鶴毛槽毛

麻毛河原毛青鶴髪之月額

第毛被雪踏踏皆お割舎人

例

連獲第毛ハ虎毛之毛青鶴髪之毛

轉毛ハ紺白の毛と白の毛

槽毛ハ赤白と黒白と

河原毛ハ白の毛

青鶴髪ハ黒の毛

月額ハ白の毛

鶴毛ハ黒の毛

踏踏ハ白の毛

皆ハ白の毛

お割ハ白の毛

舎人ハ白の毛

物とさうの義にとりて併

人の物々ふ貨物とておろる

物とさうの義にとりて併



及毒老之



物とさうの義にとりて併
人の物々ふ貨物とておろる
紙紙といふ
兵糧八

本稿替箱袋の野者料の

皮衣は油学木雜具の之所

及毒老之
▲玄粒八本、軍用の米之件、八本
ハ米の二字に依るべし、元より長書

遠くはたう、▲糶粉、箱袋の糶粉、付る糶袋、あつて
老のふく、▲初袋、食物とて、置て、昇つて、もるの、▲中宿

料と、廿五に、高うて、おと、利、名、の、お、と、い、ふ、と、なる

▲あは、米、考、美、合、箱、の、お、ろ、る、と、い、ふ、▲あは、は、は、及、毛、の、麻、草

と、用、い、つ、華、草、草、草、と、て、縁、と、い、う、上、の、方、に、草、草、の

結、と、付、る、裏、の、布、を、式、と、し、て、▲油、草、の、あ、と、お、ひ、と、お、お、の

毒、う、た、置、被、存、初、袋、の、少、人、徳

分、捕、去、武、士、石、巻、新、法、後、結

名、陣、該、之、軍、法、也、毒、一、命、被

獨、粉、骨、之、合、戦、名、載、洗、判、状

可、は、使、法、丸、之、飛、鏡、也



林八七女
戦徳帯
新法透廊
毒
丁

